

全国で250組合、900事業所でストライキ実施！

全医労が31年ぶりのストライキ決起

★全国約140病院で独法化後、初の一斉ストライキ



3月9日の全国統一行動に全医労が31年ぶりのストライキを決起しました。京都では、各支部が京都医療センター前、宇多野病院前、南京都病院前で宣伝を実施。全医労京都では、京都総評や伏見地区労、京都医労連計25人の支援を受け、8：30か



ら1時間のスタンディング宣伝とビラ配布。「看護師の働き方に関心があった」と某大学の看護管理学の教授が情報をキャッチして見学に来られました。看護師の100人規模の大量離職が問題になっている国立東京医療センター前でも実施…、関西の各府県の支部でも…、全国140の国立病院前でストライキに決起！！

桂労組はスト回避で、昼宣伝に



桂労組は、前日に文書回答があり、スト回避で昼宣伝に切り替えました。3人の桂労組の役員が参加し、医労連役員3人が支援しました。患者も職員も「そうだね。看護師増やさないと」と、役員も知っている同僚に一生懸命に声をかけて、30分で65筆の署名の協力いただきました。「こんなに集まったのは久々」と署名行動に参加した役員も元気に。

第一日赤職労と第二日赤労組は意思統一の昼休み集会

第一日赤職労と第二日赤労組は、昼休み集会を開催し、8日の本社・本部団交の報告（「春闘は始まったばかりで状況を見極め、日赤の足元の財政状況を踏まえて検討するので回答は差し控えたい」と職員の切実な要求に背を向ける回答等）、Rプランの学習会などを行いました。第一日赤職労には佐々木書記次長、第二日赤労組には勝野委員長、八木・香川副委員長、坂田書記長が激励に駆けつけました。



民医労各支部は各事業所で宣伝

京都民医労は、回答指定日の8日に104人参加の団体交渉を実施し、「コロナ禍で奮闘してきたスタッフにベア・一時金アップで答えてほしい」と追求しました。しかし、経営者の回答は「ベアなし・一時金回答延期」と職員の切実な訴えに向き合わない姿勢。そんな経営者の姿勢に民医労は、午後時限全面&指名スト決行！！各支部が病院や診療所、介護施設前などで宣伝行動を行いました。その後、ラポール京都で団交報告、そして四条大宮の京都医労連の宣伝行動に合流しました。（写真は各施設前の宣伝の様子）

